デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2020年(令和2年)9月25日(金曜日) (15)

八戸をより魅力的に

まちづくり 学生が意見交換

「はっち」でイベントワークショップも

提供された写真のため掲載できません

八戸

八戸市のNPO法人「地域活性化教育支援ネットワーク(REN)」(長谷川明理事長)は20日、同市の「はっち」で、学生たちが八戸の現在と未来を考えるイベント「#あざまる八戸よいちょまる」を開催した。若者たちが八戸をより魅力的なまちにするため、率直に意見を交わした。 (佐々木祐紀)

同団体は7月に発足したばかりで、この日が初のイベント。イベント名は若者言葉で「ありがとう八戸いいね」を意味する。

オープニングセレモニーで小林眞市長が、「学生がまちづくりを考えてくれることがうれしい」とあいさつした。

イベントでは、青森県立八戸北高、八戸工大二高、八戸工業大と同大大学院が活動報告。国宝をキャラクター化する案や、観光ボランティアガイド、市中心部のリノベーションなどについて発表した。

「内丸空き家でプロジェクト」に参加した、八戸工業大感性デザイン学部創生デザイン学科4年の中村緑夢(ぐりむ)さん(21)は「作業中に地域の方に声を掛けてもらったことが印象に残っている。古民家の良さを生かしつつ、活動を後輩にもつないでいきたい」と活動を振り返った。

イベント後半には、まちづくりの改善策を考えるワークショップも開かれ、出席者が「シェアサイクルの拡充」「電車のシルバー車両導入」など、柔軟な意見を出した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。